



2004
夏季号

ほっと石川



【特集】

開港から1年!
能登の“翼”が描く夢



能登の“翼”が描く夢

- 特集
開港から1年!
能登の“翼”が描く夢…2
- 知事の窓 ……10
- ほほえみ(石川のボランティア)…10
福祉ボランティアグループ
オレンジの会(加賀市)
- 市町村topics ……11
かほく市
- インタビュー ……12
嵯峨 百合子さん
- 広報活動アンケート…13
- シリーズ石川の総湯…14
白峰温泉総湯
- ふるさと食材図鑑 ……15
イカ
- Information ……16

能登空港の歩み

(平成15年)	
7月 7日	能登空港開港
24、25日	利用促進首都圏街頭 キャンペーン(東京交通会館)
25日	初の国際チャーター便就航 (韓国・アジアナ航空)
9月 20、21日	「空の日」イベント開催
11月 12~14日	首都圏街頭キャンペーン (東京都・有楽町能登ふるさと館)
(平成16年)	
2月 25日	国際チャーター便就航 (台湾・チャイナエアライン)
3月 4日	搭乗者10万人達成
4月 1日	126人乗りから170人乗りへ 機材が大型化
8、9日	機材大型化首都圏街頭 キャンペーン(東京サンケイビル)
6月 12、13日	開港1周年記念キャンペーン (東京都・JR新宿駅)
30日	国際チャーター便就航 (台湾・マンダリン航空)
7月 5日	搭乗者15万人達成



“能登振興の起爆剤”として開港した能登空港は、今年7月7日でまる1年を迎えました。累計搭乗率79.5%と、1年目の利用実績は予想を上回るたいへん好調なものとなりました。こうした実績を挙げることができたのは、地元の方々の熱意と努力があったからです。今回の特集では、開港から1年を経て、地元能登の方々が抱く空港と能登への熱い思いを取材しました。

表紙について

■シリーズ ふるさとの民話 かっぱのなべ太郎 (辰口町)

昔、辰口町鍋谷の集落になべ太郎という、力持ちで働き者の若者が住んでいました。ある日、なべ太郎は村人と一緒に炭を担いで美川町まで売りに行きました。村人たちが美川町本吉を通ったとき、浜にたくさんのイワシが干してありました。それを見たなべ太郎は急に立ち止まり、不思議がる村人たちを先に行かせると、イワシを両手でつかんで食べ始めました。みるみるうちにイワシはなくなり、それを見た浜の住民が「こら、大事なイワシを盗るな」と慌てて走ってきました。すると、なべ太郎は、身長三メートルのカッパになり、「鍋谷川に住むかっぱの主じゃぞ」と言い残して煙のように消えてしまいました。それから、だれもなべ太郎の姿を見た者はいませんでした。

ペーパークラフト制作/谷 俊道(金沢市在住)



搭乗率七九・五%はトップクラス

能登空港と東京を結ぶ能登―羽田便(一日1往復)は、開港後一年の延べ搭乗者数は十五万九千九百九十六人、累計搭乗率は七九・五%と好調を維持しています。ちなみに搭乗率は、この航空会社が就航している三十五の地方路線の中でも、トップクラス。

高い搭乗率が続き、搭乗者から「なかなか予約が取れない。何とかしてほしい」という声にこたえて、今年四月からは百二十六人乗りから百七十人乗りへと機体を大型化しています。

落ち込んだ観光客が回復

能登空港の開港は、能登を中心に石川県に確実な経済効果をもたらしています。日本銀行金沢支店は、首都圏から能登空港を使って訪れる観光客が、宿泊や交通費、お土産代など地元で消費するお金は年間約四十五億円にも上るとの試算を発表しています。

実際、輪島温泉郷では、昨年一月から六月まで宿泊客数が五万八千人で、前年の同期に比べて一―%減まで減少していましたが、七月の開港以降、十二月までに十万人が訪れ、前年の同期に比べて二―%増となっています。能登地域全体で見ても、観光入り込み客数が平成十五年は前年比約一〇七%の八百二十万人となっています。

また、一県一空港の特徴を生かした新しい広域観光ルートの確立も進んでいます。今まで交通アクセスの不便さや、時間の制約などから加賀と能登を周遊する観光ルートは組みにくいのが現状でした。しかし、能登空港の開港により、出入りに小松空港と能登空港の二つを利用する観光客や企画旅行も増えてきています。

台湾チャーター便で海外からも

六月からは、台湾と結ぶ国際チャーター便が週二便運航されています。このチャーター便は十月下旬まで計三十六便を運航し、約五千五百人の観光客を直接、台湾から能登に呼び込む計画で、さらに交流人口が拡大し地域振興に弾みがつくものと期待されます。

ただ、二年目となる今年こそ、能登空港の真価が問われます。県では、今後も首都圏を中心にさらなる潜在需要の掘り起こしに取り組みほか、伊丹便など新路線の開拓も視野に入れ、幅広い取り組みを積極的に進めていきます。

一方で、地元能登では開港から一年経った今、どのような思いを抱いているのでしょうか。

開港から1年! 能登の“翼”が描く夢



▲輪島塗は、高価なお椀からお手ごろなはしまで、幅広い品ぞろえがあり、お土産品としても人気です。

▲地元のひとのやりとりが楽しい輪島の朝市。全国的にも有名です。



▲木の格子窓がノスタルジックな雰囲気を出す馬場崎商店会。

「話し合いの中から、意外な観光資源が見つかったりして、とても勉強になりました」という福田さんは、能登のきれいな海と、いしるなど多彩な食文化に魅力を感じています。この二つには、「癒やし」の効果があるというのが持論で、今後、首都圏の旅行代理店を中心に「海と食文化」をテーマにした旅行プランを、積極的に提案していく考えだそうです。

会話の中から、 お客さんのニーズも

その一つが、季節を感じるやさしい街づくりをキーワードにした商店街づくりです。例えば五月、商店街の軒先には、かわいらしいてるてる坊主がぶらさがります。七月には七夕飾り、八月は風鈴というように毎月、季節の移ろいとともに商店街の表情も変わります。

開港を機に、 住民の気持ちが一つに

このほか、同商店会では、漆器店の蔵をホールに見立ててコンサートや落語の会を開いたり、交流施設「語馬処」も運営しています。また、夜の景観づくりとして、それぞれの店先に祭り用の奉灯を利用した絵替りのあかりを設置。塩安さんは、「これまで商店会が全員参加で取り組んでこられたのは、能登空港の開港を機に、住民の気持ちが一つになっただけです」と話します。



輪島市馬場崎商店会
専務理事
しおやす あいこ
塩安 愛子さん

仕事や帰省に十回以上利用

輪島市の馬場崎商店会は、旧輪島駅の近くにあり、約三百メートルの通りに四十軒ほどの店が並んでいます。同商店会は、県の都市ルネッサンス石

ハードに負けない ソフトの充実を

海と食文化を売り込みたい

福田さんは、「ありきたりのパック旅行では飽きられる。リピーターを増やすためには、能登にしかない資源を掘り起こし、効果的かつ広く情報発信しないとイケない」と考えています。そのための一つの試みが、NPO団体

地元利用者増へ エージェンツ会を設立

今年七月には、福田さんのアイデアで、能登の旅行代理店が集まって「能登空港利用促進エージェンツ会」を設立。エージェンツ会という組織をつくることで、個々の代理店では難しい主催旅行を企画・募集し、地元能登の住民にもっと東京に行ってもらおうと狙っています。

旅行代理店から Uターン

「これまで能登空港を利用した人が十五万人。首都圏の人口は約三千万人、潜在的な需要はもっとあるはずだ」と七尾市にある能登半島広域観光協会の福田忍さんは、こう語ります。

田鶴浜出身の福田さんは、能登空港が開港するのを機に二十年近く勤めた東京の旅行代理店を退職、昨年三月から同協会で事務局次長を務めています。



能登半島広域観光協会事務局次長
ふくだ しんのぶ
福田 忍さん

や観光ボランティアに携わる住民を集めて開催する意見交換会です。毎回、会場には十人前後が参加し、「まず、自分たちが能登のことを知ろう」という趣旨の下で、お互いの活動内容などの情報交換を行っています。

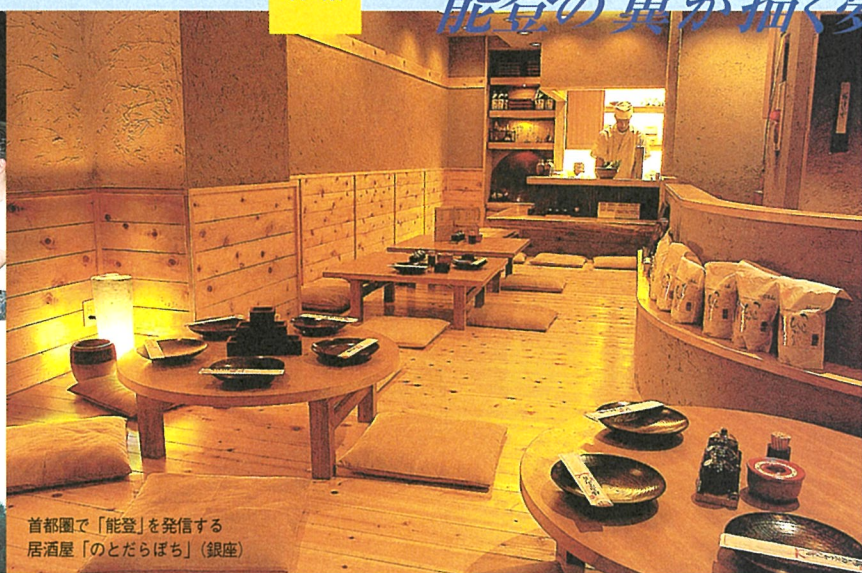
潜在的な需要は もつとある

福田さんは「搭乗率を高める目的もあるが、何よりも住民が東京を訪れることで、能登にはない楽しさを味わってもらいたい。同時に、能登にしかない良さを再発見するきっかけにもしてほしい」と話し、現在、旅行プラン作りに知恵を絞っています。

さらに、修学旅行の誘致や海外に向けた情報発信など、精力的に動き回る福田さん。「一人でも多くの方に能登に来てもらい、地元の人と交流してほしい。わたしにとって、今年が本当のスタートです」と、強い意気込みを見せています。



▲(写真上) 波穏やかな七尾湾と和倉温泉。(写真左下) 能登の特産物「いしる」はイカやイワシで造るしょう油で、郷土料理に使われる。(写真右) 今年六月には台湾チャーター便も就航し観光客の増加が期待される。



首都圏で「能登」を発信する居酒屋「のとらぼち」(銀座)



▶(写真上)「能登地酒列車&食談義」の車中で、能登の地酒と郷土料理を味わう参加者。写真提供/北國新聞社

(写真下) ウニなどの食材は小松空港から空輸していますが、将来、能登空港での空輸を考えています。



NPO能登ネットワーク代表 かずま よしお 数馬 嘉雄さん

地酒列車で 能登の魅力を発信

「能登の魅力を十分に発信でき、帰路に能登―羽田便を使ったことで、能登は近い」というイメージも持ってもらえた。こう振り返るのは数馬嘉雄さん。

数馬さんが代表を務めるNPO能登ネットワークは、昨年十一月、三日間の日程で、「能登地酒列車&食談義」を開催しました。これは、JR上野駅から貸し切りの座敷列車「のとらぼち号」を走らせ、車中、能登の地酒と日本海の幸を味わいながら杜氏と語り合い、翌日は能登の各会場で食談義を楽しむというユニークなイベントで、首都圏を中心に約二百五十人

が参加する盛況ぶりでした。「能登のいろんな人と出会え、おいしいお酒と料理が堪能できた」と評判も上々。このイベントを通して、能登が誇る地酒と刺身のうまさ、クチコ、カキといった特産品をアピールできたことに加え、帰路には能登空港を利用することで、東京と能登の時間距離がぐんと縮まったことも実感してもらえたそうです。

開港効果が銀座の店にも

開港効果は、能登ネットワークが銀座で経営する居酒屋「のとらぼち」の客足にも表れています。同店は平成十一年十一月、能登の地酒や郷土料理で能登の素晴らしさを多くの人に知ってもらおうと、数馬さんら有志十人が出資してオープン。能登で揚がった鮮魚を空輸するなど、とことん能登にこだわりました。

それが、能登空港の開港に伴い、同店がマスコミなどで大きく取り上げられると、二十四席の小さな店は連日、にぎわうように。昨年度の客の合計数は、六千七

人と人の つながりで リピーターを増やす

百十五人を数える大盛況ぶりです。うれしいことに、この店で能登が気に入りに行ってきたという常連客も出てきました。「これからも能登のアンテナショップとして、能登観光のきっかけになっていきたい」と確かな手応えを感じている数馬さんです。

語り部を通して 能登の魅力を伝える

能登ネットワークは、「能登には伝統工芸の担い手や、そば打ち名人、歴史に詳しい人など、語り部にふさわしい人物が大勢いる」(数馬さん)として、今年から人物を通して能登の魅力を伝えていく企画を立てています。人物に焦点をあてることで、人と人のつながりを築き、観光客が何度も足を運ぶリピーターを増やしていくのが狙いだそうです。

能登の語り部を観光資源とした新たな取り組みに向けて、人材発掘などの取り組みがもうすでにスタートしています。



NPOすず交流ビューロー代表 いずみや ますひろ 泉谷 満寿裕さん

珠洲の自然や食、 伝統文化、人を活かす

能登半島の先端、珠洲市。見附島をはじめ、鉢ヶ崎、狼煙、木ノ浦海岸など美しい海岸風景が続きます。

ここ珠洲の豊かな自然を舞台にグリーン・ツーリズムを楽しむ「珠洲交流プログラム」を提供しているのがNPOすず交流ビューローです。「珠洲の自然、食、伝統・文化、人の魅力を活かして、都市住民との交流を図りたい」と、語るの代表の泉谷満寿裕さん。

癒やしを求めて都会から珠洲へ来る人々を受け入れるための体制づくりとして、今年七月、すず交流ビューローは発足しました。「ホッとくつろげる不思議な空間、謙虚で素材で地味だけどすてきな顔で笑う人。都会の人が求めるものが能登、中でも珠洲にはある。だから、それらをつなぐ仕組みが必要だった」と、泉谷さんは設立のきっかけを話します。



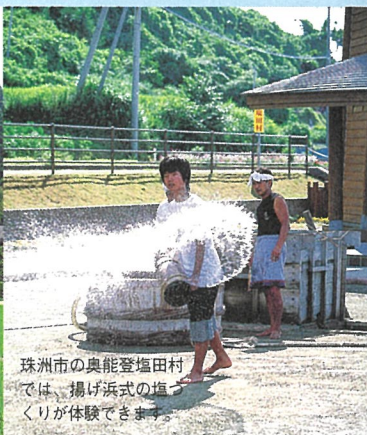
▲すず交流ビューローの仲間、奥野文恵さん(中央)と沢谷わたえさん(右)と情報交換する泉谷さん。



景勝地の見附島は珠洲市のシンボル。



農業体験の場となる青々とした田んぼ。



珠洲市の奥能登塩田村では、揚げ浜式の塩くりが体験できます。

都会の人が 求めるものが 能登にはある

空港開港で変わった 住民の意識

珠洲市は能登半島の最北端にあり、道路が整備された今でも金沢市から車で約二時間半かかります。以前は、地理的なハンディからくる劣等感を抱く人が多かったそうです。

その意識が変わったのが、能登空港の開港でした。それまで、「金沢から遠いところ」という考えから、「東京と直結している」という前向きな考えになったと言います。「中には、同窓会でデイズニードランドに行く、と楽しんで話す六十代の人もいて、空港が、住民に明るさと誇りをもたらしてくれました」と、分析する泉谷さん。

この意識改革こそが、自分たちの地域に自信を持ち都市住民と積極的に交流しようという、すず交流ビューローの設立にも結びついているのです。

交流人口の拡大が 地域全体の活性化に波及

現在、すず交流ビューローのメンバ

ーは十九人。珠洲市で初めて農家民泊に名乗りを挙げた奥野文恵さん、農業を営む末政博司さんをはじめ、漁業関係者や様々な手仕事に関わる人たちが参加しています。

グリーン・ツーリズムの参加希望者は、体験したい内容等を同ビューロー事務局に問い合わせ、事務局が受け入れ先をコーディネートする仕組みです。「農家民泊をはじめ、スイカや梅の収穫、伝統的な塩づくり、炭焼き、漁の手伝いなど豊富なワーキングメニューをそろえているので、都市住民にはきつと満足してもらえるはず」と自信をのぞかせる泉谷さん。「交流人口の拡大こそが、地域に誇りをもたらすし、やがては活性化につながる」と人と人の交流が地域振興に波及していくことに期待を寄せています。

◎取材を終えて

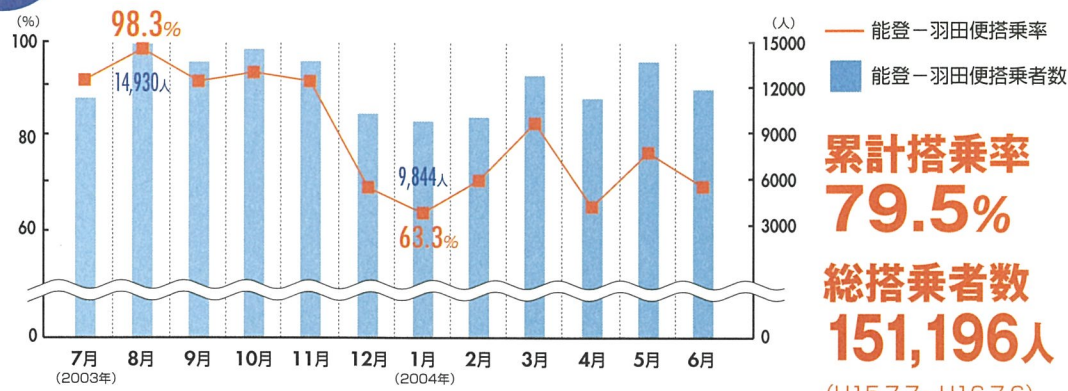
新しい観光商品の開発に情熱を注ぐ福田さん、能登の人情味あふれるもてなしを大切にしている塩安さん、人と人のつながりで能登の魅力を首都圏へ発信する数馬さん、豊かな自然を生かして地域の活性化を図る泉谷さん。今回の取材で感じたのは、皆さんの「能登らしさ」へのこだわりと、空港を単なる交通手段としてではなく地域を活性化する核として使っていくことへの熱い思いでした。数字ばかりでなく、これこそが空港開港がもたらした最大の「効果」なのかもしれません。

データで見る能登空港

能登空港の1年目は、皆様のご協力もあり、高い搭乗率を維持することができました。そして、今年4月から航空機が126人乗りから170人乗りへと大型化しました。2年目を迎えた能登空港。データの面から紹介します。

DATA OF NOTO AIRPORT

搭乗率 1年目は高い搭乗率をキープしました!



※2004年4月以降、搭乗者が増えているのに搭乗率が下がっているのは、機体大型化のためです。



▲多くの人々にぎわう空港内。

▶旅客ターミナルビルには、奥能登行政センターが併設され、広域行政の拠点になっています。

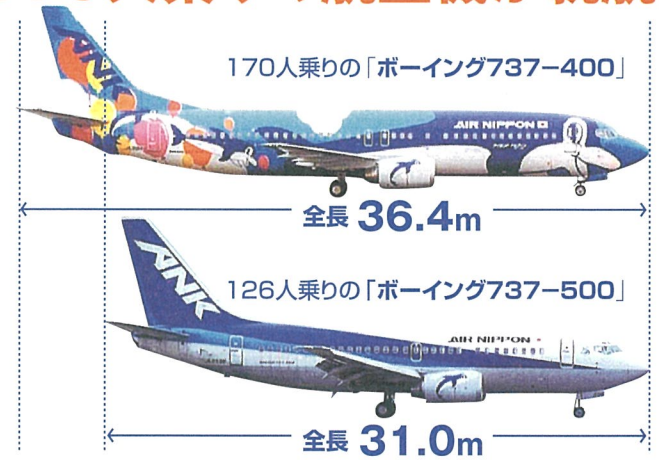


機体比較

今年4月から170人乗りの航空機が就航!

航空機のスペック

ボーイング737-400	
全幅	28.9m
全高	11.1m
巡航速度	810 km/h
航続距離	1,550 km
ボーイング737-500	
全幅	28.9m
全高	11.1m
巡航速度	810 km/h
航続距離	2,780 km



現在

従来

二次交通

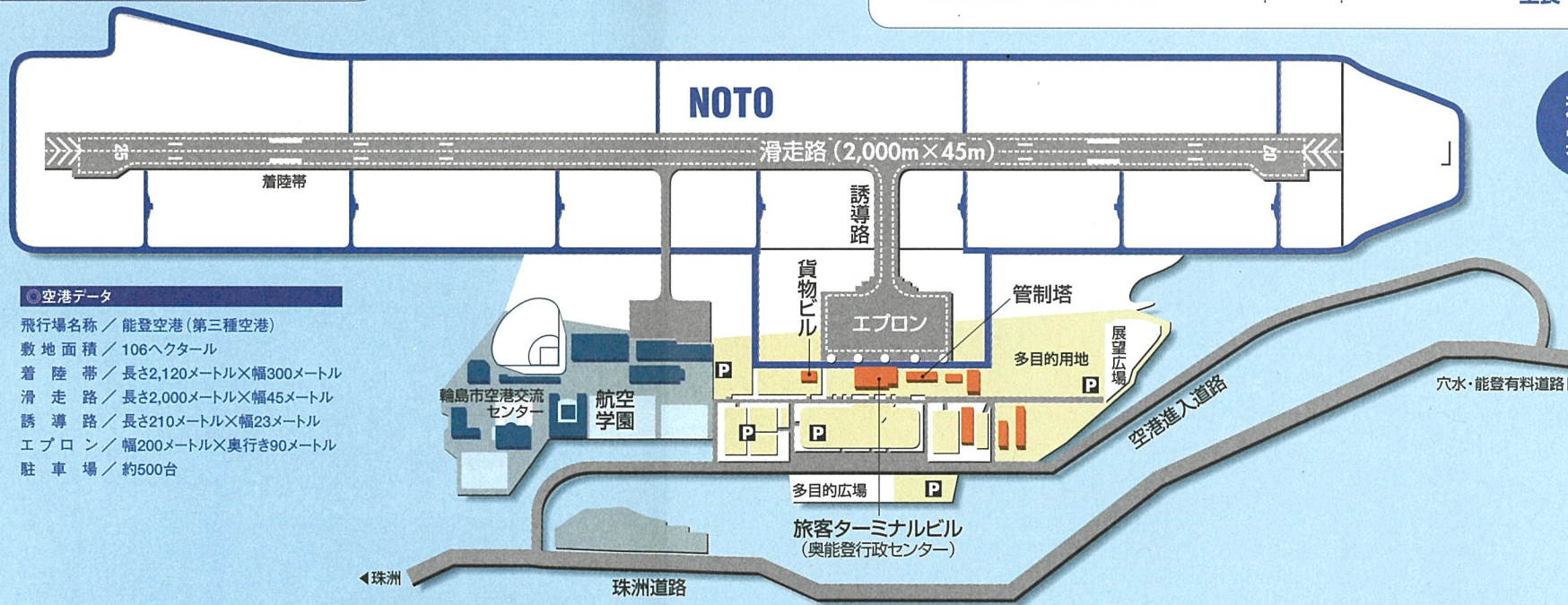
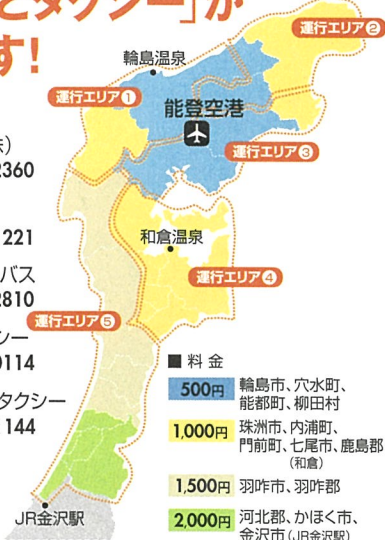
「ふるさとタクシー」が人気です!

予約・お問い合わせ

- 運行エリア① 港観光バス(株) ☎0768(22)2360
- 運行エリア② スズ交通(株) ☎0768(82)1221
- 運行エリア③ (有)恋路観光バス ☎0768(72)2810
- 運行エリア④ (株)中島タクシー ☎0767(66)0114
- 運行エリア⑤ (有)能登金剛タクシー ☎0767(42)1144

料金

500円	輪島市、穴水町、能登町、柳田村
1,000円	珠洲市、内浦町、門前町、七尾市、鹿島郡(和倉)
1,500円	羽咋市、羽咋郡
2,000円	河北郡、かほく市、金沢市(JR金沢駅)



空港データ

飛行場名称 / 能登空港(第三種空港)
敷地面積 / 106ヘクタール
着陸帯 / 長さ2,120メートル×幅300メートル
滑走路 / 長さ2,000メートル×幅45メートル
誘導路 / 長さ210メートル×幅23メートル
エプロン / 幅200メートル×奥行き90メートル
駐車場 / 約500台

利用案内

1日2便が運航!

航空ダイヤ

羽田空港	10:05	能登空港	11:40	羽田空港
	14:00		15:40	
		能登空港	16:45	羽田空港

料金

	片道	往復
7/1(木)~7/15(木)	18,500円	33,000円
9/1(水)~9/30(水)		
7/16(金)~8/31(水)	20,500円	34,700円

※上記料金に加えて、一律300円(片道)の「航空保険特別料金」がかかります
※7/30(金)~8/23(月)の期間、往復料金は使えません

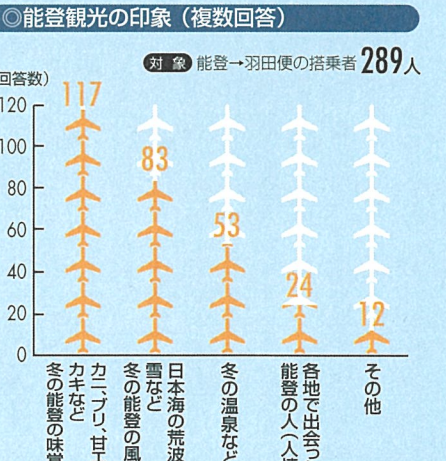
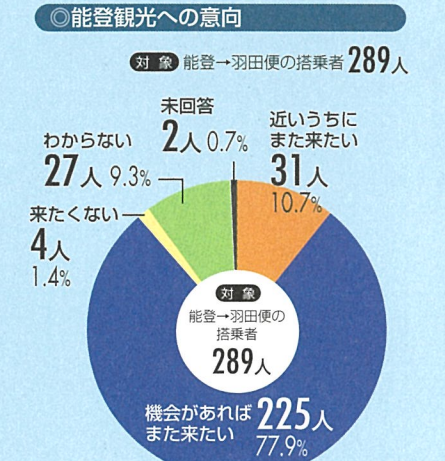
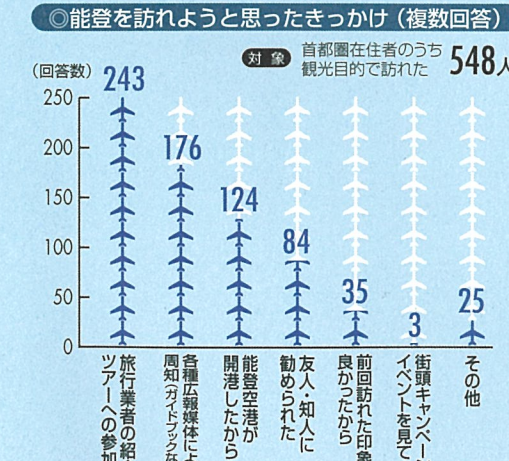
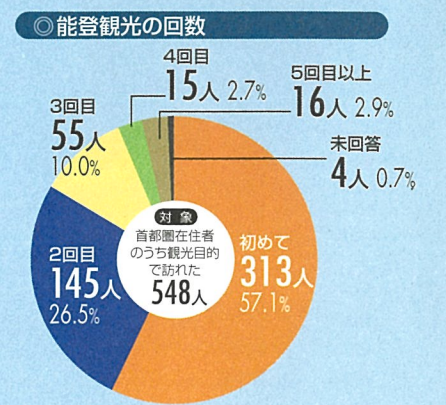
第2回 能登空港に関するアンケート調査(冬季)実施結果

実施期間 平成16年2月23~29日(1週間) 調査対象 実施期間中の能登→羽田便の全搭乗者(調査便数28便) 回収総数 1,765人(搭乗者数2,688人、回収率65.7%)

◎旅行の目的

住所地別	区分	観光	ビジネス	帰省	冠婚葬祭	その他	未回答
首都圏(971人)	回答者数	548人	218人	79人	67人	35人	24人
	構成率	56.4%	22.5%	8.1%	6.9%	3.6%	2.5%
石川県(436人)	回答者数	127人	111人	28人	48人	90人	32人
	構成率	29.1%	25.5%	6.4%	11.0%	20.6%	7.3%
合計(1,407人)	回答者数	675人	329人	107人	115人	125人	56人
	構成率	48.0%	23.4%	7.6%	8.2%	8.9%	4.0%

※その他の住所地、未回答をのぞく





▲テレビ電話で他の庁舎の担当者と話する住民。

「平成の大合併」の石川県内第一号として、高松町、七塚町、宇ノ気町の三町が今年三月、合併して誕生したかほく市。住民サービス向上のアイデアや、一体化に向けた取り組みを紹介しします。

市町村 topics

かほく市

KAHOKU

合併効果の 実感に向け 住民サービスに工夫



▲合併により三町から利用者が集まるようになった子育て支援センター「愛・遊・館」

各庁舎に サービスセンターを 設置

県内九番目の市としてスタートしたかほく市では、合併が住民の生活に支障を与えないよう、さまざまな工夫を凝らしています。同市は、総務部などの各部署が市役所と高松庁舎、七塚庁舎に分散しています。この

子育て支援センターの 利用者が倍増

高松地区にあるかほく子育て支援センター「愛・遊・館」は、育児相談に答えたり、母親たちの交流の場となる施設で、保育士の資格を持つ二人の職員が常駐。今年三月、市広報で利用を呼びかけたところ、七塚地区や宇ノ気地区からの利用者が増えました。今年四、五月の利用者数は千五百三十八人で、前年の同期と



▲かほく市役所



▲七塚庁舎



▲高松庁舎

ため、申請などの窓口業務が不便になるのではとの懸念の声もありましたが、各庁舎にサービスセンターを設置し、きめ細かに対応することで解決しています。さらに、市役所と高松庁舎、七塚庁舎をテレビ電話でつなぎ、どの庁舎に行っても、担当職員が対応できるようにしました。「説明に加えて、画面越しに資料や写真が見られるので分かりやすい」と、住民にも好評です。

市文化協会の誕生で、 広がる活動の輪

住民の文化活動にも、好影響を与えているようです。高松地区で押し花教室を主宰する住民が今年五月、うみつこらんど七塚で「押し花アート展」を開催しました。当日、市内から多くの観覧者が集まり、「予想以上のにぎわい」と、合併の効果を実感。また、七月には、市文化協会の発足を記念して、市内の四つのコーラスグループが同会場で合同コンサートを開催し、自慢の歌声で会場を訪れた多くの住民を魅了しました。市では合併効果の一つとして、住民の文化活動の輪がより広がることを期待しています。

●問い合わせ



上海で「世界の工場から 世界の市場へ」を実感

中国市場の未来に確かな手応えを感じ取っていました。現在、国内産業の多くは、中国から輸入される製品との価格競争で苦しんでいます。しかし、これからは中国への販路を開拓し、日本製を輸出すれば勝算はある！との印象を、今回の視察で強くしました。まずまず拡大するであろう中国ビジネス。世界の商都となった上海と大陸との時間距離を縮めるためには、小松空港と上海を結ぶ定期便の就航がどうしても不可欠です。定期便の利用は、当面は北陸からの人が大半かもしれませんが、やがて中国から大勢の観光客がやって来る日も夢ではありません。そう確信できるぐらい、今の中国には発展のエネルギーが満ちあふれています。日本経済に活力を呼び込む中国パワー。その追い風を石川県に生かすよう、大胆細心に取り組んでいきたいと思っています。

smile 石川のボランティア ほほえみ



▲福祉施設のホーム喫茶を手伝うほか、フリーマーケットやバザーに出店し、売上を福祉団体に寄付するなど幅広い活動を展開しています

明るい笑顔でみんなを元気に

ボランティアグループ「オレンジの会」は、毎週土曜日、加賀市の知的障害者更生施設・県立錦城学園を訪れます。この学園では、土曜の午後二時から三時半まで、入園者による入園者のためのホーム喫茶が開かれています。一時間半に約九十人が訪れる、とにかく忙しいこの喫茶店の調理場ではオレンジ色のエプロンをしたメンバーが、元気いっぱい次々と注文を受けています。

「みなさん、楽しみに待っていてくれるんですよ」と、うれしそうに話してくれたのは代表の中本さん。この学園に来ることで、自分たちも元気をもらっている、メンバー全員が感じているそうです。

できることは何でもお手伝い

同会は、手話サークルで知り合った仲間が集まっただけの福祉ボランティアグループです。メンバー十人全員が主婦であると同時に、それぞれ会社員や保育士といった仕事を持つ

誰かの役に立ちたい と集まった 元気いっぱいの 主婦グループ

福祉ボランティアグループ

●オレンジの会 (加賀市)

しており、忙しい毎日ですが「自分のためだけでなく、人のために」という熱意から、小さなことでもまず行動しようという平成九年四月に同会を立ち上げました。

無理せず、気負わず、長く続けることを目標に、海岸清掃や老人ホームでのおむつたみ、掃除、食事介護など、依頼があれば何でも積極的に引き受けます。そのほかにも、一人ひとりが運転ボランティアやひとり暮らしのお年寄りを訪問するなど、時間が許す限りボランティア活動に参加しているそうです。

太陽のように暖かい「オレンジの会」は、何よりその笑顔で地元ではなくてはならない存在として頼りにされています。



▲オレンジゼリーを食べながら話しかけて作ったグループだから「オレンジの会」の名前がつけました

●問い合わせ

福祉ボランティアグループ
オレンジの会
代表 中本典子
〒922-0821 加賀市南郷町カ17-5
TEL.0761(73)0893

広報活動アンケート

皆さまの声をとじ込みはがきでお寄せください。ご回答いただいた中から抽選で50人に、「季節の加賀野菜詰め合わせ」をプレゼントします。



▶写真はイメージです。収穫状況等により詰め合わせ内容は異なります。

Q1 県広報誌「ほっと石川」(本誌)についてお聞かせください。

- (ア) お読みになっていますか。
 ① 毎回読んでいる ② 時々読んでいる
 ③ あまり読んでいない ④ 今回はじめて読んだ
- (イ) 読む際にまずどこに注目しますか?
 ① 特集のテーマ ② インタビューにだれが出ているか ③ 写真やイラストなどのデザイン ④ 記事の内容
 ⑤ その他()
- (ウ) 今後、取り上げたらよいと思うテーマは?
 ① 若者への就業対策 ② 小松空港の国際化 ③ 少子化対策 ④ 環境への取り組み
 ⑤ その他()

金時草や加賀太キュウリ、へた紫ナスなど、季節の加賀野菜を詰め合わせにしました。全国に誇る金沢の味をご賞味ください。(協力/JA金沢市)

Q2 県新聞広報「広報いしかわ」についてお聞かせください。

- (ア) お読みになったことはありますか?
 ① 毎週読んでいる ② 時々読んでいる
 ③ 知っているが読んだことはない ④ 今まで知らなかった
- (イ) どのようなときにお読みになっていますか?
 ① 目をとおす習慣になっている ② 県の取り組みについて知りたいとき ③ 行事案内などを見るとき
 ④ たまたま目を引いたとき ⑤ その他()
- (ウ) お読みになった印象はどうですか?
 ① 解説を増やすなど内容をわかりやすく ② 掲載する情報を増やすなど内容の充実を
 ③ 文字を大きくするなど読みやすく ④ 写真やイラスト等デザイン面での工夫を
 ⑤ その他()



▶県内発行5紙 水曜日朝刊掲載

Q3 県テレビ広報番組(石川テレビ)「ウイークリーいしかわ」についてお聞かせください。

- (ア) ご覧になったことはありますか?
 ① 毎週見ている ② 時々見ている
 ③ 知っているが見たことはない ④ 今まで知らなかった
- (イ) 広報番組を見る際、何を重視しますか?
 ① わかりやすさ ② 面白さ楽しさ ③ ニュース性 ④ 映像としての美しさ
 ⑤ その他()
- (ウ) 次のうち、ご覧になるのに都合のいい時間帯は?
 ① 朝(7~9時) ② 午前(9~12時) ③ 午後(12~16時) ④ 夕方(16~18時) ⑤ 深夜(23時~)



▶毎週日曜午後 5時25分~30分に 石川テレビで放送中

Q4 本誌や県の広報活動について、また、県政へのご提言があればご記入ください。

interview
インタビュー

今年六月から、石川県のイメージアップのため、観光誘客キャンペーンなどで活躍中の嵯峨百合子さん。本県出身として初めて「二〇〇四年度ミス日本グランプリ」に輝く嵯峨さんに、高校時代まで過ごしたふるさと石川への思いなどをうかがいました。

友人と故郷の味が元気をくれる

ミス日本に選ばれて、イベントがあったり撮影があったりと忙しい毎日です。そんなわたしに元気をくれるのが、友人たちと過ごすひととき。一緒にショッピングしたり、おしゃべりしたり、どんなときもわたしの都合に合わせてくれる友人たちの厚い友情には感謝しきりです。

もう一つ元気をくれるのが、ふるさと石川の食べ物。ひとくち食べれば、懐かしい味に自然とエネルギーがわいてきます。石

ふるさとへの「人」の魅力を伝えたい



嵯峨 百合子さん

プロフィール
 1982年7月24日生まれ。金沢市出身。高校時代、アメリカに2年間留学。「ミス日本」として、さまざまなイベントやボランティア活動など多方面で活躍中。

川はお米でも魚でも本当においしいところ。こうした食材の良さを、もっと全国の皆さんに知ってもらいたいですね。

友人たちとロンドンで 伝統工芸展

高校時代にアメリカ留学した折、なぜか食器が冷たく感じられる違和感に戸惑いました。金沢で使っていた九谷焼や輪島塗は、職人さんの思いが伝わってくるからでしょうか、どこかぬくもりを感じます。このこ



▲能登空港開港1周年記念キャンペーンの様子 (6月12日、JR新富駅南口)

とをきっかけに日本の伝統工芸に誇りを抱くようになりました。昨年十一月、帰国子女の友人たちとロンドンで日本の伝統工芸展を企画したのも、そんな思いからです。展示品は、日本各地の伝統工芸の職人さんを訪ね、提

生意気な言い方もしませんが、伝統工芸を支える職人さんのような「人」も、立派な観光資源となるのではないのでしょうか。ですから、伝統文化や美しい自然とともに、この「人」の魅力を通じて石川の良さを伝えていきたいですね。とりわけ、わたしが感じた職人の方々の熱意を伝えられたいと思います。

「人」の魅力も 立派な資源

この伝統工芸展の開催にあたり、特に石川県には応援して下さる方がたくさんいらっしゃいました。金箔の老舗では、展示品の提供だけでなく金箔をケーキにトッピングするというアイデアもいただきました。新しいことに挑戦しようという熱意をひととき強く感じました。「もの」だけでなく、それを生み出す「人」の魅力に気づいたのもこの時です。

供をお願いしました。伝統工芸品を自由な発想で使ってもらおうという趣旨で開いた展示会は大好評で、わずかですが日本文化の発信にも貢献できたと感じました。



▲水平線にイカ釣り漁船のいさり火が並ぶ光景は、石川県の初夏の風物詩になっています。

初夏を告げる イカ釣りのいさり火

このスルメイカ、石川の漁業を支える屋台骨の一つで、水揚げ量は全国三位の二万七千四百九十九トン（平成十五年）。漁業生産額でも県全体の約二十

夏バテや高血圧も予防

漁は夜が明けるまで続き、帰港するのは早朝。この季節、県内の漁港はどこもスルメイカの水揚げでにぎわいを見せます。

機械が疑似餌のついた釣り糸を巻き上げると、次々と甲板に飛び込んでくるのはスルメイカ。その場で手際よく氷の入った箱に詰められていきます。



▲水揚げされたばかりのスルメイカ。金沢港でせりにかけられ、全国に発送されます。

かつてはたいまつのみかり

石川の海に初夏の到来を告げるいさり火。その正体はイカ釣り漁船の集魚灯です。夕方になると、船首から船尾まで取り付けた集魚灯に一齐に明かりがともり、獲物をおびき寄せます。かつては、たいまつのみかりが使われていたそうで、石油灯、アセチレン灯、電灯と時代とともに変わってきました。

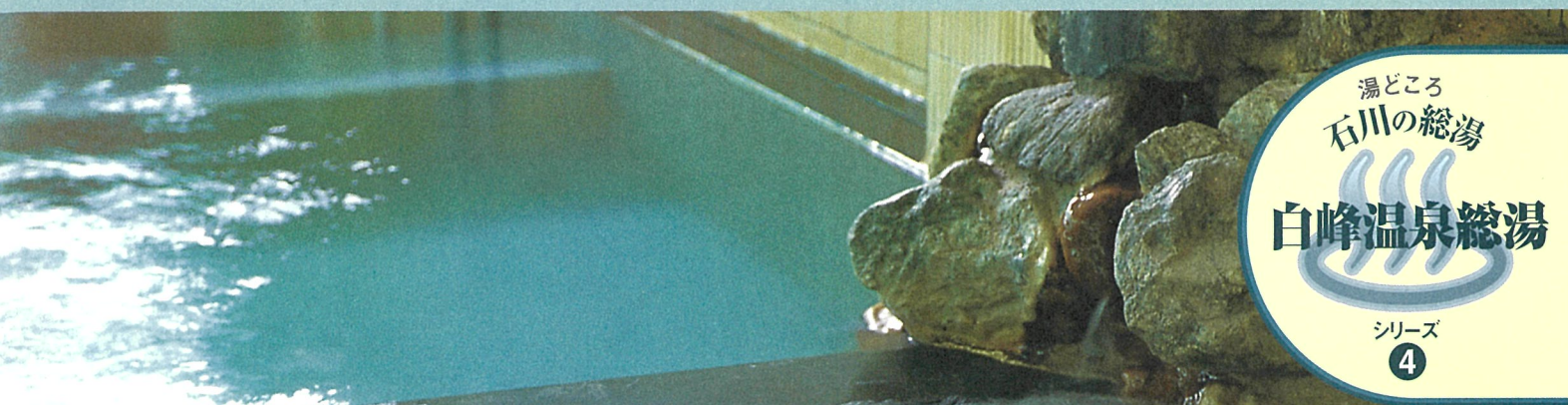
五%を占めます。

ところで、スルメイカは、刺し身をはじめ、煮物や焼き物にしてもおいしいのですが、そればかりでなく、血中のコレステロールや中性脂肪を下げる「タウリン」を多量に含んでいます。疲れがたまりやすい夏場、疲労回復や高血圧の予防に、ぜひ召し上がっていただきたいものです。



第1回 【イカ】

石川県には豊かな自然の恵みがあります。石川県自慢の四季の食材を紹介する新連載の第一回は、日本海に初夏を告げる「イカ」。



素朴な山里にわく 絹肌の湯

白 峰温泉総湯は、街の中にある昔ながらの銭湯というイメージです。中は、番台やダイヤル式の黒電話など、昭和初期にタイムスリップしたかのような懐かしさでいっぱい。毎日、お湯と世間話を楽しみに、地元の人たちが訪れます。

風 呂場は明るく清潔に保たれ、二つ国でも四カ所しかないという純重曹泉。まるでやがで肌がつるつるになることから「絹肌の湯」と呼ばれ、評判を聞いて県外から足を運ぶ客も少なくないそうです。

総 湯は、風情ある街なみ整備が進む白峰村の集落の中央に位置し、散策にもってこいの場所にあります。周囲には、特産のとちもちや堅豆腐、ナ

メコ、みそなどを売る店が並び、白山信仰ゆかりの貴重な仏像を安置する白山本地堂もすぐ近くです。

また車で五分ほど走れば、かつての山村の暮らしを再現した県立白山ろく民俗資料館があり、豪壮な旧家や出づくり小屋なども保存されています。

白峰村は、金沢市から車で五十分ほど。白山ろくの名湯と素朴な味や人情にふれに出かけてみてはいかがでしょうか。



●問い合わせ
白峰温泉総湯
〒920-2501 石川県白峰村白峰口65-2
TEL.0761(98)2839

泉質 ナトリウム硫酸水素（弱アルカリ性低張温泉）
主な効能 神経痛、関節痛、慢性消化器病、切り傷、やけど
飲泉 不可
営業時間 午後二時～午後九時
土日祝は午前十時～午後九時
（毎週火曜休養）
料金 中学生以上三〇〇円、小学生一三〇円、五歳以下一五〇円

▶ほろ苦く素朴な風味のとちもち。白峰村のとちもちは、雑誌などで紹介されるなど有名で、遠方から買い求めに来る人も。



▲国指定の重要有形民俗文化財992点をはじめ、江戸中期の豪農の家など、白山ろく独特の山村文化を知ることができる県立白山ろく民俗資料館。



▶雲峰白山から流れ出る清水を使い、50キロもの重石で固められた堅豆腐。大豆本来の甘みが生かれています。

のと海洋ふれあいセンターで、海の生き物と友だちになるう!

九十九湾にあり、豊かな自然を舞台にした海のまなび舎である同センターに、新たに海の自然体験館が完成しました。

スノーケリングをはじめ、海の自然と生きものを主役にした体験型プログラムがますます充実。この夏、家族みんなで、見て、触れて、楽しみながら海を学んでみませんか?

◎ のと海洋ふれあいセンター



能登の海の中景観を立体映像で紹介するマリンシアターや、磯の生きものにふれることができるタッチプールなどがあります。



◎ 海の自然体験館

NEW!



太陽光による温水シャワーなどを備え快適にスノーケリングを楽しむための拠点施設。120人が収容できる「自然体験室」などもあり、体験学習機能が大幅に充実。

◎ 屋外タッチフィールド



「磯浜と潮だまりプール」でヒトデやクサフグなど、磯の生きものとふれあうことができます。プールは、小学校低学年が入ってもひざ下ぐらいの深さなので、安心して磯遊びができます。

◎ 藻塩体験コーナー



素焼きの土器とホンダワラなどの海藻を使って作る「古代の塩づくり」体験ができます。

◎ スノーケリングフィールド



初心者練習ゾーン、初級・中級に分かれたコースなどスノーケリングのための区画を整備。8月はスノーケリングスクールを開催しています。申込方法等は右記のとおり。

日 時	8/15(日)、22(日) 午前、午後の2コース
対 象	小学校4年生～一般
定 員	各回20人
申込方法	電話で、「住所」「氏名」「電話番号」などをお知らせください
内 容	ウェットスーツ、マスク、フィンの使い方の基礎・海の生態観察
締め切り	各開催日の一週間前
参加費	機材費1,000円が必要です
入館料	高校生以上200円、中学生以下無料

●問い合わせ・申し込み

のと海洋ふれあいセンター 〒927-0552 内浦町越坂3-47

TEL.0768(74)1919 ホームページ <http://www.pref.ishikawa.jp/nmc/>



県政に対する
ご意見・ご提言を
お寄せください

前略 石川県知事

住所・郵便番号・氏名・年齢・職業をご記入の上、郵便またはファクスでお送りください。
〒920-8580 住所の記入不要

石川県広報広聴室「前略 石川県知事」あて
FAX 076(225)1368

ホームページでもみなさんからの
ご意見をお待ちしています。

●知事のホームページの提言コーナー

●いしかわ夢づくりEメール

県のホームページからアクセスしてください。
<http://www.pref.ishikawa.jp/>

編集後記

●開港から一年。特集の取材を通じて、地元の方々の、これからも空港を地域の活性化に生かしていくという意識を強く感じました。

どんなインフラも結局はそれを使う「人」次第だと思います。

取材で感じた皆さんの能登への熱い思いを、さらに地域全体に広げ、新たな取り組みに結びつけていくことが、能登活性化のカギとなるように感じました。

石川県の人口(推計)

117万7481人 平成16年6月1日現在

男 56万9756人

女 60万7725人

世帯数 42万7059世帯
(↑世帯あたりの2.76人)